新進路指導の潮流

奈良県立郡山高校

他者とのかかわりの中で生徒の進路観を早期に養成する

奈良県立郡山高校は、野球部、吹奏楽部、放送部など、全国大会で活躍する部をいくつも抱え、生徒の9割がクラブに参加する部活動の盛んな高校である。そして、進学面では1年生のほぼ全員が国公立大を志望するという、まさに文武両道の学校といえる。

「生徒には進学面でも成果をあげ、部活動でも一流をめざしてほしいと思っています。確かにしんどいかもしれませんが、そうでないと郡山高校に来た意味がありませんから。我々教師も、3年生までは放課後に講習を入れないなど、部活動の時間を保証するようにしています」

進路指導部長の岡本秀光先生は「部活動に熱心に取り組んでいる影響でしょうか、生徒は明るいし、成績も部活動を終えた高3の秋以降にグングン伸びてきます」と語る。

低学年からの進路指導を

「そんな生徒たちを見て、1年生のころからもっと積極的に進路のことを考えられるようなシステムがあれば、と感じ始めたのです。これまで本校の進路指導は、部活動が終わった3年生を中心にしていました。しかし、それではどうしても付け焼き刃的になりがちで、大学のことをよく知らないで受験、進学する生徒も出てきます。大学名や偏差値だけで大学を選ぶ生徒は、たとえ1人でもいてほしくはありません」

また、郡山高校では生徒の家庭学習の時間が2年生になると特に少なくなるという。そればかりか、授業に集中できなくなる生徒も見られるようになってくる。

「入試という意味では、それなりの結果を出しているのですが、なんだか最後になってつじつまを合わせているようにも思えるのです。せっかく力を持っているのだから、1、2年生の早い時期に進路に対する意識づけができれば、進路選択でも入試でももっと満足いく結果が出せるのに。そう感じていました」

職業レポートを課題に

郡山高校では、2年次での文理コース分けに向けて、1年次の9月に文理選択に関する説明会を実施している。保護者も出席するこの説明会では、2年次からのカリキュラム説明以外に、文系理系どちらを選ぶかによって学部・学科選択、将来の職業選択にどのような影響があるかを話す。この説明会に先立ち、文理選択に向けて生徒の進路観を養成するため、面談や課題レポートといった取り組みを実施している。

「本校では『キャリアサポート』の進路学習ノートを、入学してすぐの4月に渡しています。生徒には『このノートに書かれてあることについて、担任の先生や家族の人に話を聞きながら、これから3年間進路について考えていこう』と呼びかけています」

進路学習ノートを活用した大きな取り組みに、夏休みの職業レポート作成がある。生徒は興味を持っている職業について調査し、2学期にはHRを利用して各クラスで発表会が実施される。

「クラスでの発表は、生徒にとって自分とは違うほかの人の考えを聞く貴重な機会です。他者とのかかわりの中でこれまでの自分の考えを検証し、友人の意見によって視野を広げることができるはずです」

クラスメートの発表を聞くことによって、これまで意識しなかった職業に興味を持つことも大切だと岡本先生は考える。

「そもそも進路は自分自身で選ぶものなのだから、少々迷ってもかまわないと思います。いろんなものに目を向け、1人ひとりがいろんなことを考えながら決めていけばいいのです。そのためにも発表会で友人の意見に耳を傾けてもらいたいと思います。実際、同級生の体験を聞いたことで、変わっていく生徒も少なくありません」

客観データで再検討

郡山高校では、文理選択に関する客観データを得るため、1年生に対して7月に「キャリアサポート」の文理適性検査を実施している。検査結果は、担任が面談資料として活用する。

「面談の際、担任は検査結果を踏まえて生徒に『文理を決めることは将来を決めることにもつながるんだよ』と語りかけているようです。中には、自分の志望と違う結果が出る生徒もいますが、我々はそれも一つの客観的な事実として生徒とともに受けとめます。生徒自身も気づいていない可能性があるのでは、また、ひょっとして今までの志望は狭い視野での思い込みだったかも……と、文理選択のプロセスをもう一度確認してみる機会にするよう指導しています」

進路学習ノート、文理適性検査の導入は、これまでクラスによってまちまちになりがちだった低学年の進路指導を、学年全体で足並みをそろえたものに変えていった。そもそもクラブ活動の盛んな同校では、各クラブごとに成績表を作成、クラブ顧問も生徒の成績を把握し、担任と連携しながら指導を行っていた。つまり、全教師が共同して生徒の指導にあたる体制がより強化されたといえるだろう。

「放課後は部活動に参加するので、うちの生徒は皆教師と交流する時間がかなり長いんです。そのせいか、生徒は教師のところによく足を運びますよ。また、中には休日に学校に勉強しにやってくる生徒もいて、彼らは学校をいつでも自由に利用できる〝コンビニ〟感覚でとらえているようですね（笑）。生徒に対して強い求心力を持っている本校ではなおのこと、クラブ顧問も担任も、同じように生徒の将来を保証する責任があることを痛感します」

奈良県立郡山高校
岡本 秀光

昭和25年奈良県生まれ。数学担当。
郡山高校に赴任して6年目を迎える。
平成7年度より進路指導部長を務める。
新たな行事として、保護者、社会人を招いた講演会を企画している。

面談に力を入れる

進路・学習指導において重要な位置を占めるのはやはり個別面談、と岡本先生は語る。事実、郡山高校では1年生の2学期後半から、文理決定を受けて今後どのような学習を行うべきか担任が個別に指導し、2年生になってからも家庭学習の習慣が根づくように面談を重ねていく。

「また、本校では全校生徒を対象にした独自の進路・学習アンケートを毎年実施しています。進路の希望状況、学習・生活状況などを調査し、その年の生徒の傾向を把握するとともに、面談の資料としても活用しています」

生徒の世界観を広げていく取り組みも年々充実してきている。2年次からのオープンキャンパスへの参加や、卒業生を招いた講演会の実施などで、生徒は新しい世界に出合う度、進路学習ノートにそこで学んだことを書きとめていく。

「資料を配って終わりではない、常に自分を振り返ることのできる指導を心がけています」